

教育講演2

「知床斜里からの減圧症患者搬送 ～ 救急車とドクターヘリ」

上見 崇

斜里地区消防組合消防署

斜里町は、世界自然遺産である知床半島の東側にある町です。主要産業のひとつである漁業では、オホーツク海での定置網を中心に沿岸漁業が盛んです。定置網漁において90名ほどの漁業者が潜水作業に従事しサケ・マス・ホッケを水揚げしています。

潜水作業は、2名1チームとして深さ30m～40mで1回あたり20分～30分活動時間です。潜水の回数は、多い日で1日10回程度となっております。

平成11年に使用不可になるまで、町内の病院に設置された複式潜水病療養缶による治療が行われておりました。平成11年に有資格者が不在となり使用不可となってからは、斜里町から245km離れた旭川医科大学までの搬送が必要となり、経路上には標高800m近くの峠があります。そのため搬送中の負担を軽減するため、ポータブル再圧タンクを使用した搬送体制と事例を基に斜里町における減圧症の救急搬送体制ついて紹介いたします。